京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2017-11

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇一七-一一

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園

2018年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

2018年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、覆屋建設に伴う特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

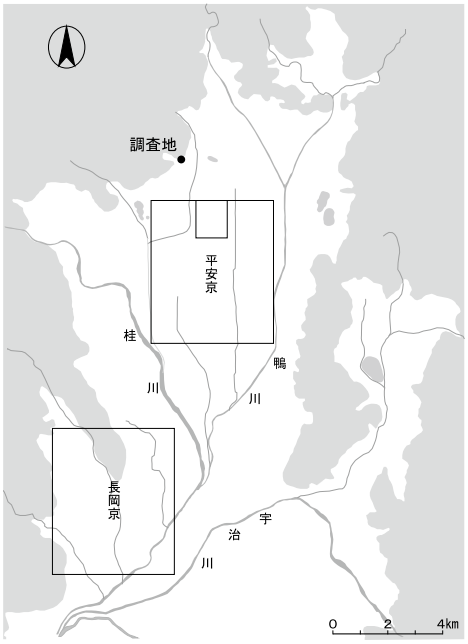
平成30年３月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園
2	調査所在地	京都市北区金閣寺町１　鹿苑寺境内
3	委　託　者	宗教法人　鹿苑寺　代表役員　有馬頼底
4	調 査 期 間	2018年２月14日～2018年３月12日
5	調 査 面 積	約48㎡（１区：39㎡、２区：９㎡）
6	調査担当者	鈴木康高
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「原谷」・「衣笠山」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	通し番号を付した。
13	本 書 作 成	鈴木康高
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査経過 …… 1
（１）調査に至る経緯 …… 1
（２）調査の経過 …… 1
２．位置と環境 …… 3
（１）位置と環境 …… 3
（２）周辺の調査 …… 3
３．遺　　構 …… 5
（１）基本層序 …… 5
（２）１区の遺構 …… 5
（３）２区の遺構 …… 8
４．遺　　物 …… 10
（１）土器類 …… 10
５．ま と め …… 11

図　版　目　次

図版１　遺構　１　１区全景（北から）
２　１区落込み25（南から）
３　１区土塀（南東から）
図版２　遺構　１　２区全景（北北東から）
２　２区南壁（北西から）
３　２区高まり53断面（南南西から）

挿　図　目　次

図１　調査地位置図及び調査区配置図（１：1,000）　……　1
図２　１区調査前全景（南東から）　……　2
図３　２区調査前全景（南西から）　……　2
図４　１区作業風景（北西から）　……　2
図５　２区作業風景（北東から）　……　2
図６　１区埋戻し後（南から）　……　2
図７　２区埋戻し後（南西から）　……　2
図８　１区平面図（１：80）　……　6
図９　１区断面図（１：50）　……　7
図10　２区平面図・断面図（１：50）　……　9
図11　出土土器実測図（１：４）　……　10

表　目　次

表１　遺構概要表　……　5
表２　遺物概要表　……　10

特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園

１．調査経過（図１～７）

（１）調査に至る経緯

本調査は、特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園の参拝門前の覆屋建設に先立ち、遺構・遺物の状況を確認することを目的に発掘調査を行った。

調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が鹿苑寺（金閣寺）から委託を受け、京都府教育庁指導部文化財保護課（以下「府保護課」という）と京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「市保護課」という）の指導のもと実施した。

（２）調査の経過

本調査は平成30年（2018）２月14日に開始した。調査地は参拝門東側の南北方向の参拝路にあたる。調査区は当初５箇所計画し、初めにその内の２箇所の調査を行い、必要に応じて調査区を増

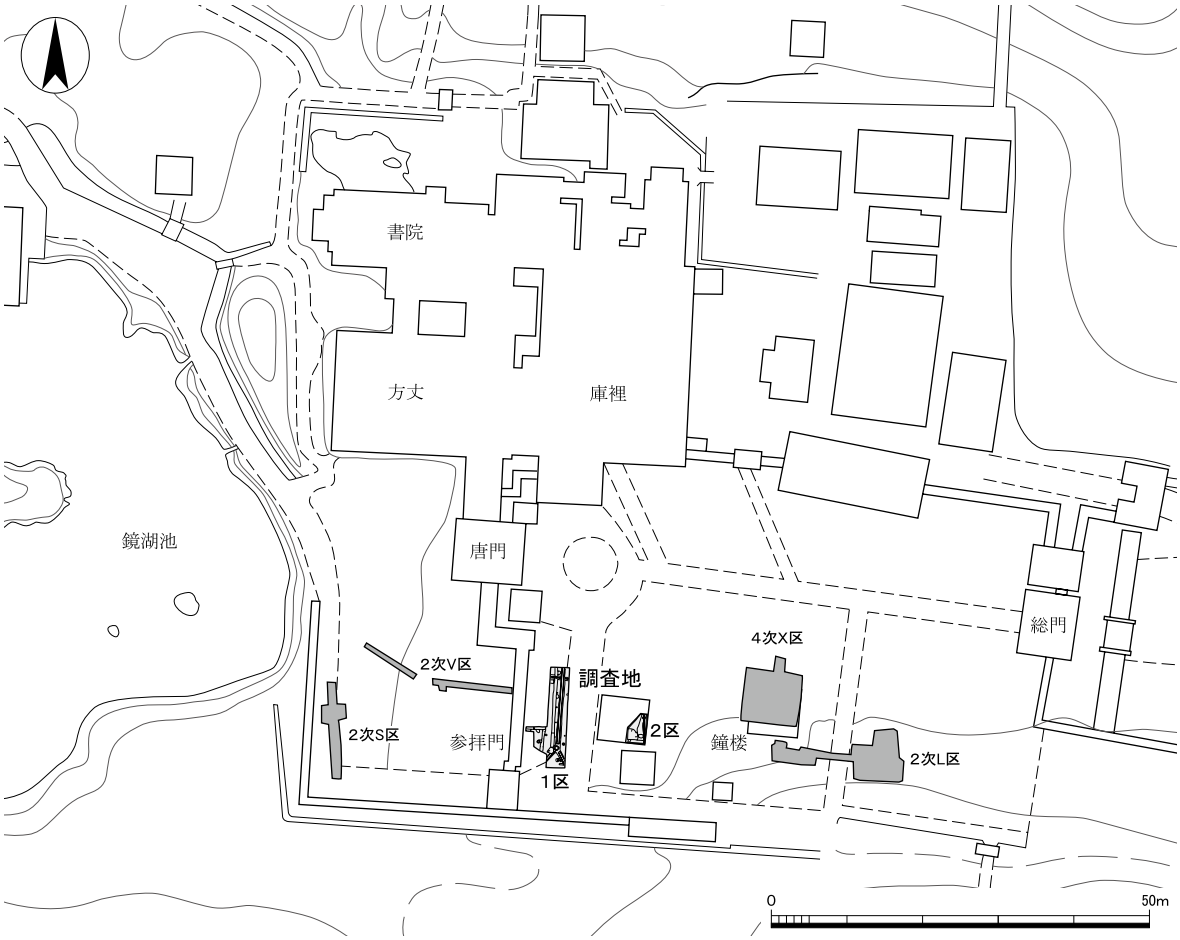


図１　調査地位置図及び調査区配置図（１：1,000）

図２　１区調査前全景（南東から）

図３　２区調査前全景（南西から）

図４　１区作業風景（北西から）

図５　２区作業風景（北東から）

図６　１区埋戻し後（南から）

図７　２区埋戻し後（南西から）

やすこととしたが、必要な情報が得られたため、はじめの２箇所を調査するに留まった。調査区は参拝路を挟んだ東・西に設定し、西側を１区、東側を２区とした。１・２区ともに江戸時代の遺構面の検出に留め、下層の確認は現代攪乱を利用した断割り調査を行い遺構への影響が最小限となるように注意を払った。

１区の調査では、重機により明治時代以降の路面構築土を掘削、江戸時代の遺構面を検出し、南北方向の路面を確認した。また、断割り調査を行い、下層で室町時代の遺構面と落込みを確認した。さらに、府・市保護課の指導のもと、調査区を一部拡張し、西側土塀の構築時期についての確認も行った。その結果、土塀の設置時期が明治時代以降になることが明らかとなった。

２区の調査では、人力で現代盛土を掘削、江戸時代の遺構面を検出して、廃棄土坑を確認した。また、その下層で室町時代の土坑・高まり・整地層を確認した。検出した遺構は人力で掘削し、図面作成・写真撮影などの記録作業を行った。調査後は埋め戻しを行い、３月12日にすべての現地作業を終了した。

２．位置と環境

（１）位置と環境

調査地は、大正14年（1925）に指定された「特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園」に位置する。

当地は、平安時代に神祇伯家の領有であったが、元仁元年（1224）に西園寺公経が尾張国松枝と交換して、別業を造営したとされている。この別業がいわゆる北山第である（足利義満の北山殿と区別するため北山第とする）。この北山第は藤原道長が造営した法成寺と比較されるほどの規模を誇っていた[1)]。室町時代になると足利義満が西園寺家よりこの地を譲り受け、応永４年（1397）に北山殿を造営する。北山殿は、義満の北御所と夫人である日野康子の南御所、叔母の崇賢門院の御所の３つから構成され、広大な敷地を有していた。義満が没するまで、政治・文化の中心地として機能する。義満に続いて、日野康子が没すると、足利義持によって建物の大半が解体され、諸寺院へ移転されたが[2)]、その中で、舎利殿（金閣）のみが残される。北山殿が義持によって取り壊されてから、鹿苑寺がいつ創建されることになったのかは明らかでないが、応永29年（1422）には義持が鹿苑寺を訪れており、この時期より前には造営が開始されていたようである[3)]。義持によって取り壊された堂宇の整備も進んでいたようだが、応仁元年（1467）にはじまる応仁の乱の際に、西軍の陣の一つとなり、金閣以外の堂宇が再び取り壊される[4)]。応仁の乱後、堂宇の再建が進み文明十九年（1487）には、方丈の再建に至っている。その後、客殿や納所寮、会所の整備が進んでいく。江戸時代以降も堂宇の修理や整備が継続的に行われ、拝観者が多く訪れるようになる。修理や整備を繰り返しながら存続してきた金閣は、昭和25年（1950）に焼失するが、昭和30年（1955）に再建された。

（２）周辺の調査（図１）

鹿苑寺（金閣寺）では、これまでに数多くの発掘調査が実施され、本調査で19次となる。周辺の調査については、京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊や京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015－９で詳細にまとめられている[5)]。本報告では、本調査で検出した遺構・遺物と関連する調査についてみていく。

今回の調査に近接する調査区は、２次調査Ｓ・Ｖ区、４次調査Ｘ区である。

Ｓ区では、室町時代の花崗岩の切り石を用いた礎石（建物22）や石組、東西方向の溝を検出し

た。東西方向の溝は花崗岩を検出した硬化面から掘り込まれる。さらに、下層には鎌倉時代に遡る池状の埋土が堆積する。Ｖ区では、室町時代の南北方向の２条の溝や景石を１石検出した。Ｘ区では、平安時代中期の土坑と包含層、室町時代の東西方向の溝、江戸時代の土坑を検出した。

Ｓ区の石組みとＶ区の景石は、距離的に近く、一連の遺構になる可能性が指摘されている。

境内南部では、Ｓ区の東西方向の溝やＶ区の南北方向の溝40・41、Ｘ区の東西方向の溝といった堀状遺構を検出しており、境内をとりまく堀になる可能性が示されている。

註

１）『増鏡』第５　内野行の雪

２）『看聞御記』応永二十六年十二月十二日条

３）『兼宣公記』応永二十九年三月二十一日条

４）『大乗院寺社雑事記』応仁元年六月二十二日条

５）『特別史跡特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園　防災防犯施設工事に伴う発掘調査報告書』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1997年
『特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015‐９　公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2016年

３．遺　　構

（１）基本層序（図９・10）

調査地の現地表面は、１区が標高96.1～96.2ｍ、２区が標高96.0～96.05ｍで、北西から南東に向かってわずかに傾斜する。

１区の基本層序は、Ｘ＝－106,584を基準とし、標高95.9ｍより上方は調査区東壁（図９）、これより下方は断割り部東壁（図９のＢ－Ｂ’）を参照する。現地表面から明治時代以降の路面構築土（厚さ0.25ｍ）、江戸時代の路面及び整地層（厚さ0.5ｍ）、室町時代整地層である。室町時代整地層については、断割り調査を行っていないため厚さは不明である。明治時代以降の路面構築土はビリ砂利（φ１～２㎝の礫）と黄褐色土を用い、互層状に積み上げる。調査は、江戸時代整地層上面で行い、路面を検出した。さらに攪乱を利用した断割り調査の結果、室町時代と考えられる遺構面を検出し、南へ下がる落込み25を確認した。室町時代の遺構面の標高は、95.3～95.45ｍである。この室町時代の遺構面及び落込みを、江戸時代に埋めて整地し、路面としている。

２区の基本層序は、南壁（図10）を基準にする。現地表面から現代盛土（厚さ0.35ｍ）があり、それ以下は調査区の東西で大きく異なる。東側は厚さ約0.1ｍの江戸時代整地層、その下層には厚さ0.9ｍの高まり53構築土が認められる。高まり西側の落込みは、江戸時代の整地土によって埋められている。標高94.6ｍで固く締まった面を確認している。掘り下げを行っていないため、厚さは不明である。遺構面の可能性もあるが、部分的な確認のため、判断することが難しい。高まり53上面の標高は、およそ95.7ｍである。高まり53構築土からの出土遺物は乏しく、正確な年代は不明であるが、15世紀後半以前のものと考えられる。

以下では調査区ごとに、各時代に分けて記述する。

（２）１区の遺構（図８・９、図版１）

１区は参拝門北側土塀の東側に設定した。調査区は南北方向に長い長方形で、南西部が西側に張り出す。また、土塀基礎を確認するため、張り出し部の北部を西側に拡張した。

室町時代

落込み25（図版１）　調査区南部で検出した南へ下る落込みである。江戸時代の整地土によって

表１　遺構概要表

時　　代	遺　　構	
	１区	２区
室町時代	落込み25、整地層	土坑52、高まり53、整地層
江戸時代	路面、整地層	土坑51、整地層
明治時代以降	土塀	

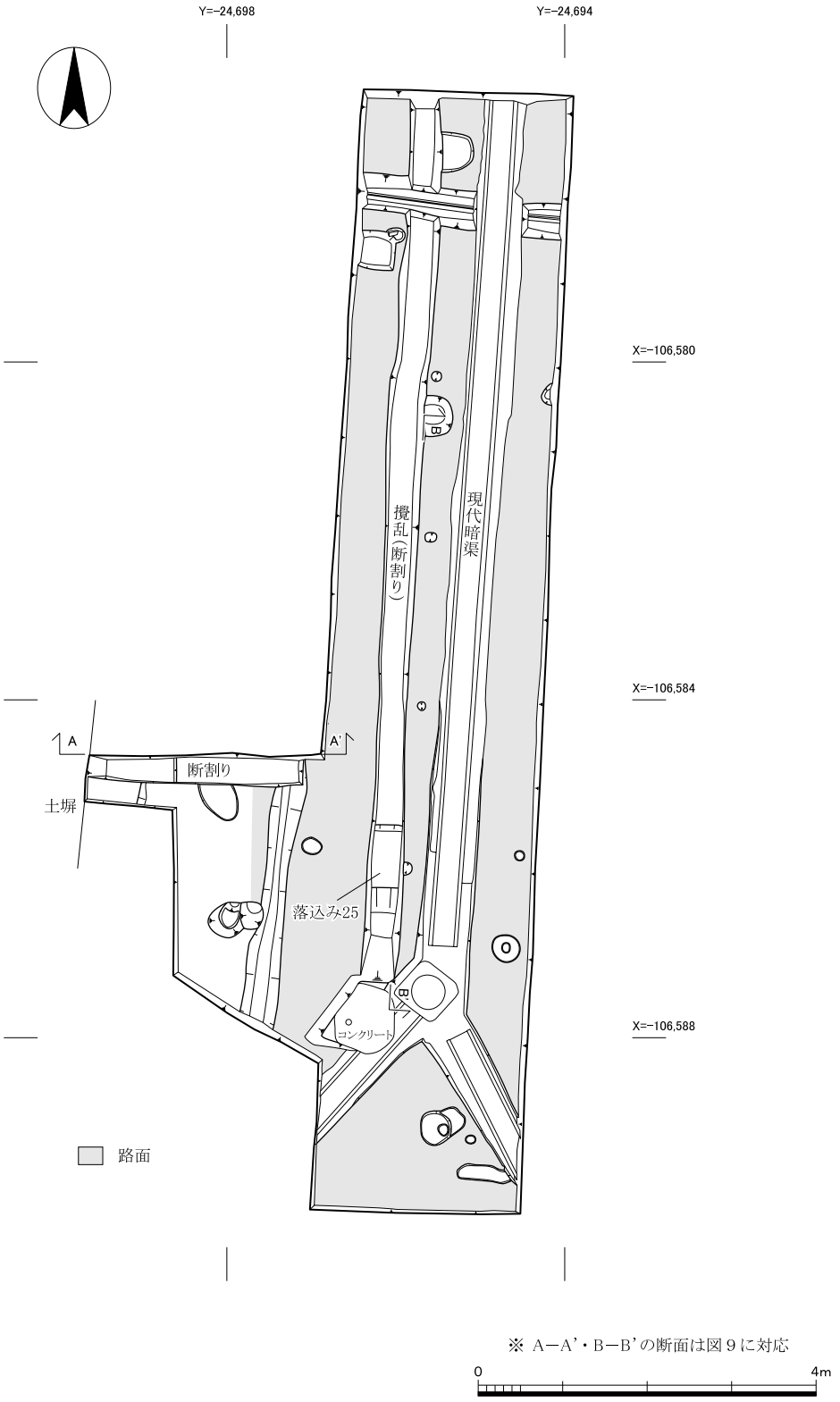

Y=−24,698
Y=−24,694
X=−106,580
X=−106,584
X=−106,588
A
A'
B
B'
撹乱（断割り）
現代暗渠
断割り
土塀
落込み25
コンクリート
路面
※ A−A'・B−B'の断面は図９に対応
0
4m

図８　１区平面図（１：80）

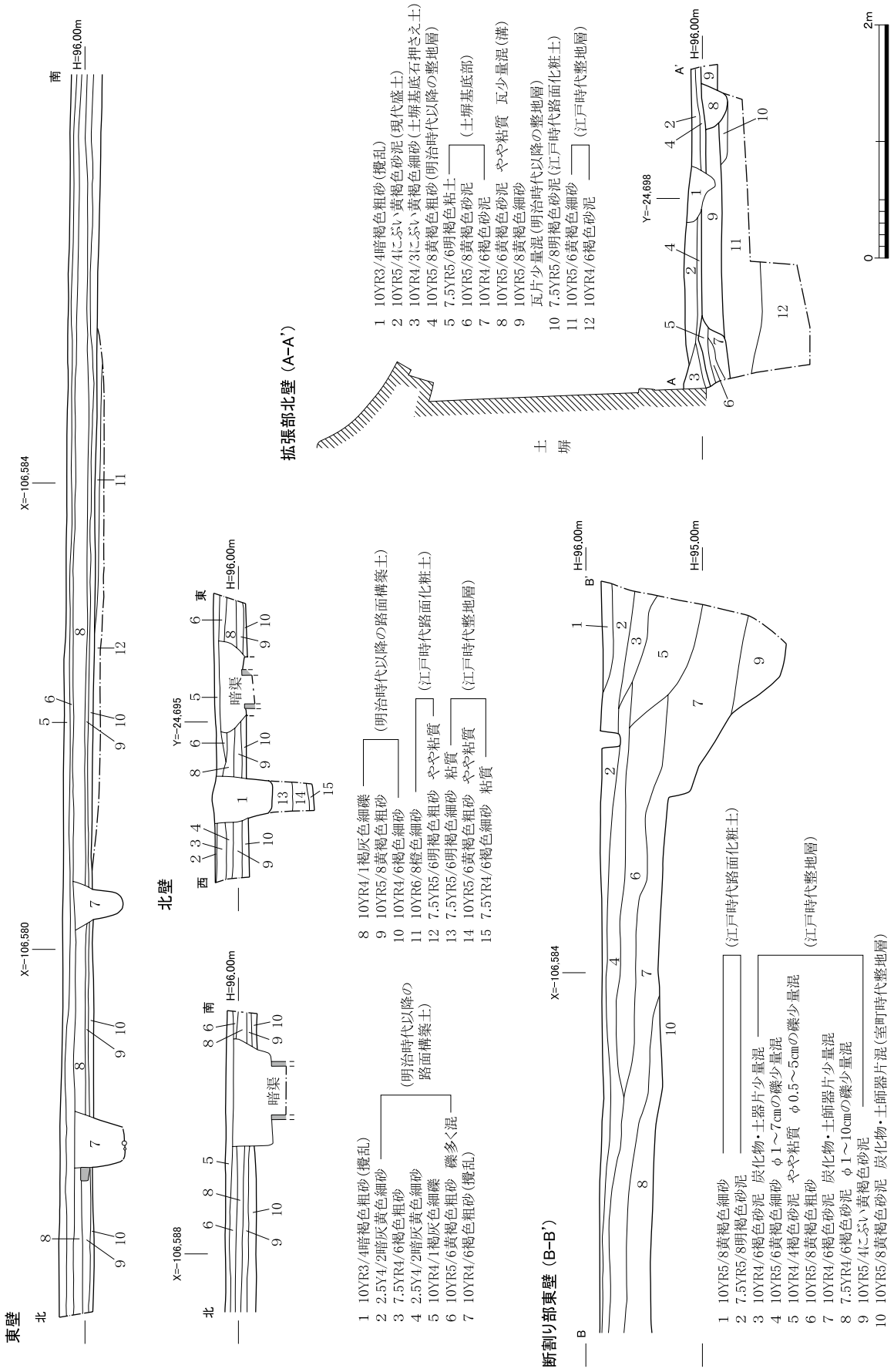

東壁
北
南
H=96.00m
X=−106.584
X=−106.580
北壁
西
東
Y=−24.695
暗渠
X=−106.588
1 10YR3/4暗褐色粗砂(攪乱)
2 2.5Y4/2暗灰黄色細砂
3 7.5YR4/6褐色粗砂
4 2.5Y4/2暗灰黄色細砂
5 10YR4/1褐灰色細礫
6 10YR5/6黄褐色粗砂 礫多く混
7 10YR4/6褐色粗砂(攪乱)
(明治時代以降の路面構築土)
8 10YR4/1褐灰色細礫
9 10YR5/8黄褐色粗砂
10 10YR4/6褐色細砂
11 10YR6/8橙色細砂
12 7.5YR5/6明褐色粗砂 やや粘質
13 7.5YR5/6明褐色細砂 粘質
14 10YR5/6黄褐色粗砂 やや粘質
15 7.5YR4/6褐色細砂 粘質
(明治時代以降の路面構築土)
(江戸時代路面化粧土)
(江戸時代整地層)
拡張部北壁(A−A')
A
A'
Y=−24.698
土塀
1 10YR3/4暗褐色粗砂(攪乱)
2 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥(現代盛土)
3 10YR4/3にぶい黄褐色細砂(土塀基底石押さえ土)
4 10YR5/8黄褐色粗砂(明治時代以降の整地層)
5 7.5YR5/6明褐色粘土
6 10YR5/8黄褐色砂泥
(土塀基底部)
7 10YR4/6褐色砂泥 やや粘質 瓦少量混(溝)
8 10YR5/6黄褐色砂泥
9 10YR5/8黄褐色細砂
瓦片少量混(明治時代以降の整地層)
10 7.5YR5/8明褐色砂泥(江戸時代路面化粧土)
11 10YR5/6黄褐色細砂
12 10YR4/6褐色砂泥
(江戸時代整地層)
0
2m
断割り部東壁(B−B')
B
B'
H=95.00m
1 10YR5/8黄褐色細砂
2 7.5YR5/8明褐色砂泥
3 10YR4/6褐色砂泥 炭化物・土器片少量混
4 10YR5/6黄褐色細砂 φ1〜7cmの礫少量混
5 10YR4/4褐色砂泥 やや粘質 φ0.5〜5cmの礫少量混
6 10YR5/8黄褐色粗砂
7 10YR4/6褐色砂泥 炭化物・土師器片少量混
8 7.5YR4/6褐色砂泥 φ1〜10cmの礫少量混
9 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥
10 10YR5/8黄褐色砂泥 炭化物・土師器片混(室町時代整地層)
(江戸時代路面化粧土)
(江戸時代整地層)

図９　１区断面図（１：50）

埋められている。検出できたのは北肩のみで、検出長1.9ｍ、検出幅0.3ｍ、深さ約１ｍである。底部の標高は94.3ｍである。

江戸時代

路面　明治時代以降の路面構築土直下で、南北方向の路面を検出した。路面は黄褐色土を固く叩き締めている。検出した路面の西端は、黄褐色土の検出範囲からＹ＝－24,697.5付近であると考えられる。路面の南・北・東側は調査区外に広がる。路面の標高は95.84～95.94ｍで、北から南へわずかに傾斜する。この路面は室町時代と考えられる遺構面上に整地土を積み、その上に黄褐色土を化粧土として用いて路面としていることから、一連の作業で構築されたものと思われる。整地層の厚さは約0.4～1.4ｍ、化粧土の厚さは0.04～0.3ｍである。整地層から出土した最も新しい遺物は17世紀代の土器である。

明治時代以降

土塀（図版１）　調査区を土塀基礎部分まで拡張し、その構造を調査した。その結果、土塀の基礎は明治時代以降の整地層上面（図９のＡ－Ａ’：９層）から掘り込まれた、いわゆる掘込み地業が施されていることが判明した。掘込みは土塀東端から東に0.6ｍ、深さ0.2ｍの規模で行われており、内部には褐色系粘質土が３層（同：５～７層）にわたって叩き締められている。その上に基底石を据え、裾に盛土をして固定し、土塀の基礎を形成している。基底石の下部には東側の路面部分から広がる黄褐色粗砂層（同：４層）が食い込んでいることから、基底石部分は後に修復されている。基底石底部の標高は、95.96ｍである。

（３）２区の遺構（図10、図版２）

２区は参拝路の東側に設定した。調査区は台形状である。

室町時代

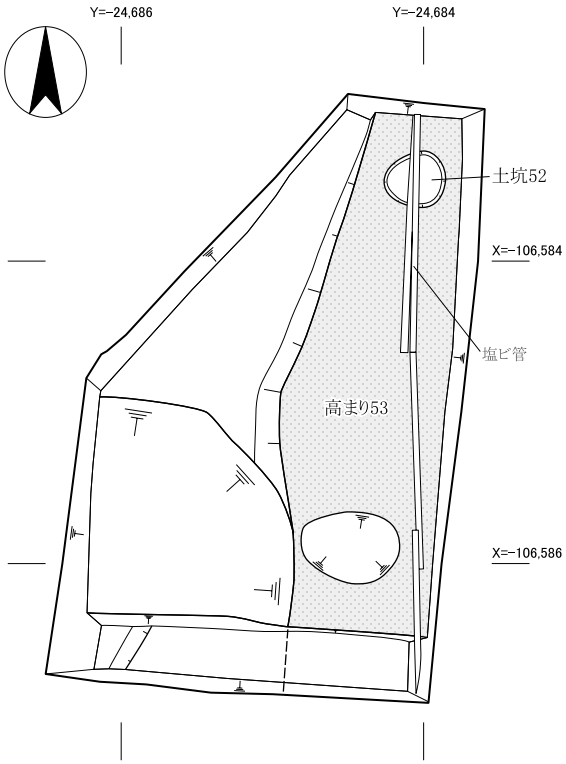
高まり53　調査区東半で検出した。南・北・東側は調査区外に広がる。高さは0.9ｍである。西側は江戸時代の整地土によって埋められている。

土坑52　調査区北部の高まり53上面で検出した。平面形は円形で、直径0.4ｍである。埋土から京都Ⅸ期新段階の土器が出土した。

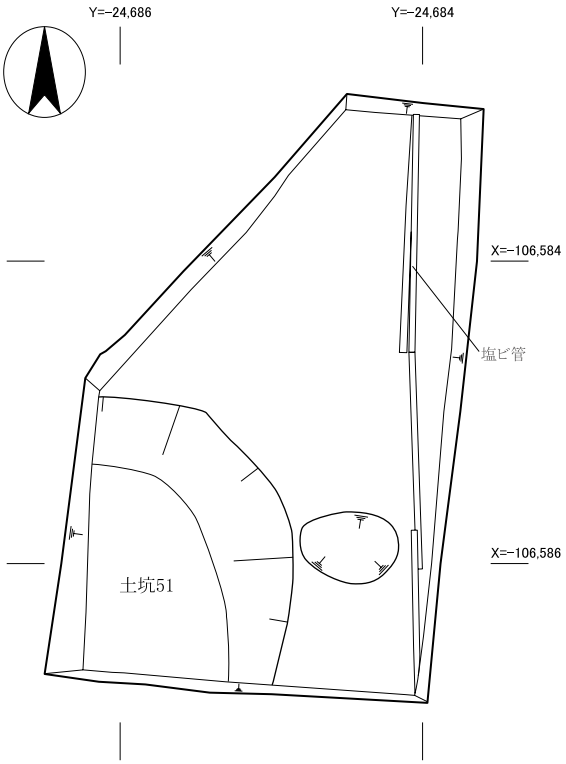
江戸時代

土坑51　調査区南西部で検出した。南と西側は調査区外に広がる。江戸時代整地層上面から掘り込まれる。平面形は、調査区外に広がるため不明だが円形を呈すると考えられる。検出長は東西1.4ｍ、南北1.8ｍである。埋土から江戸時代の土器・瓦が多く出土しており、廃棄土坑と考えられる。

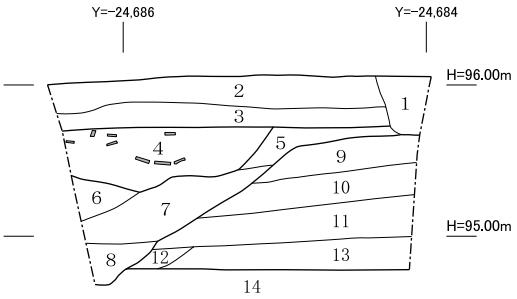
室町時代



江戸時代



南壁



1　10YR5/8黄褐色砂泥(攪乱)
2　10YR4/4褐色粗砂
3　10YR7/6明黄褐褐色シルト　粘質
(現代盛土)
4　10YR4/6褐色粗砂　瓦少量含む(土坑51)
5　7.5YR4/6褐色砂泥
6　7.5YR5/6明褐色砂泥
7　10YR4/6褐色砂泥　やや粘質
8　7.5YR4/4褐色砂泥
(江戸時代整地層)
9　7.5YR4/6褐色砂泥
10　7.5YR4/4褐色砂泥　土師器片少量混
11　10YR4/6褐色砂泥　土師器片少量混
12　7.5YR3/4暗褐色砂泥　やや粘質
13　7.5YR4/4褐色砂泥　やや粘質
土師器片・瓦混
(高まり53)
14　7.5YR4/4褐色砂泥　やや粘質(中世整地層)

図10　２区平面図・断面図（１：50）

４．遺　　物

調査では整理コンテナにして２箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、土製品、瓦類がある。土器・陶磁器類が半数、瓦が半数を占める。遺物の帰属時期は、主に室町時代と江戸時代である。平安時代後期から鎌倉時代の遺物もわずかに出土している。

（１）土器類（図11）

以下では主要な遺構から出土した土器について述べる。

土坑52出土土器（１・２）　土師器・瓦類が出土した。時期は京都Ⅸ期新段階である[1)]。

１・２は土師器である。１は皿Ｎで、口径8.5㎝、器高2.0㎝である。２は皿Ｓ大で、口径14.8㎝、器高2.9㎝である。

土坑51出土土器（３）　土師器・施釉陶器・瓦類が出土した。時期は江戸時代である。

３は土師器皿である。皿Nr大で、口径8.1㎝、器高1.7㎝である。

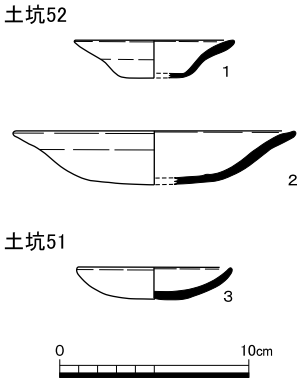


図11　出土土器実測図（１：４）

註

1）　小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年研究」『研究紀要』第３号　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1996年

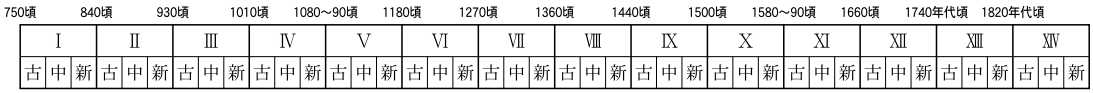


表２　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク掲載遺物点数	Ａランク未掲載箱数	Ｂ･Ｃランク箱数
平安時代～室町時代	土師器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類		土師器２点		
江戸時代	土師器、施釉陶器、焼締陶器、染付磁器、土製品、瓦類		土師器１点		
合　計		３箱	３点（１箱）	２箱	０箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、掲載遺物を抽出したため、出土時より１箱多くなっている。

５．まとめ

検出した主な遺構は、室町時代の土坑・落込み・高まり・整地層、江戸時代の土坑・路面、明治時代以降の土塀基礎である。

室町時代の遺構は、１区で東西方向と考えられる落込み25の北肩を検出した。南肩は検出できていないものの、断面形状から溝とは考え難く、ひな壇造成の変換点を検出した可能性が高いと考えられる。構造は異なるものの、２次調査Ｓ区で検出した東西方向の溝39はほぼ同一ライン上に位置することから関連する遺構と思われる。

１区で検出した室町時代の遺構面の標高は95.3～95.45ｍ、落込み25底部の標高が94.3ｍである。一方、２区で検出した高まり53の上面の標高は95.7ｍ、裾部の標高が94.7ｍとなっており、１区と２区で検出した遺構面及び遺構にはレベル差がみられることから、１区から２区にかけて地形が変化していると考えられるが、調査範囲が限られるため、面的な広がりや連続性は把握できていない。これらの関連性については今後の課題である。

江戸時代の遺構は、土坑51・路面がある。土坑51は、埋土に瓦などを多く含み、廃棄土坑と考えられる。４次調査Ｘ区でも江戸時代の廃棄土坑が検出されており、参拝路東側から鐘楼にかけての土地をゴミ処理に利用していた可能性が考えられる。一方、１区で検出した路面は、室町時代の遺構面上に0.4～1.4ｍ程度の整地層を積み上げ、路面部分に黄褐色の化粧土を用いて仕上げている。化粧土の西端を土塀から東へ約２ｍのところで検出しており、現在の参拝路の前身にあたるものと考えられることから、江戸時代の参拝路は現在よりも西側へ広がっていたことがわかる。

明治時代以降の遺構には、土塀がある。裾部の断割り調査を行い、その基礎構造を把握した。その構造は、整地層上面から掘込み地業が行われているが、基底石の下部にはビリ砂利を含む黄褐色土が入り込んでいることから後に補修されている。基底石の下でみられたビリ砂利は、現在の参拝路に用いられているものと酷似する。

調査の結果、主に室町時代から明治時代以降にかけての遺構・遺物を検出し、その変遷の一端を明らかにしたが、室町時代の遺構については部分的な調査であったため、得られた情報が少なく、遺構の面的な広がりを把握するには至っていない。今後の調査で、さらなる様相の把握が期待される。

図　　版

1　１区全景（北から）

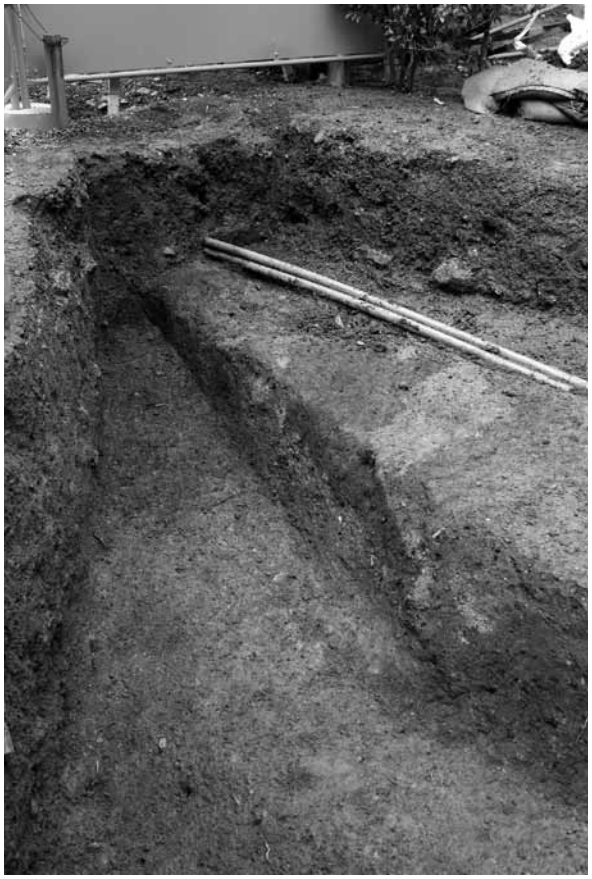
2　１区落込み25（南から）

3　１区土塀（南東から）

図版２　遺構

１　２区全景（北北東から）

２　２区南壁（北西から）



３　２区高まり53断面（南南西から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	とくべつしせき・とくべつめいしょう　ろくおんじ（きんかくじ）ていえん
書名	特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０１７－１１
編著者名	鈴木康高
編集機関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発行所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発行年月日	西暦2018年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園（とくべつしせき・とくべつめいしょう　ろくおんじ（きんかくじ）ていえん）	京都市北区金閣寺町１番地（きょうとしきたくきんかくじちょう）	26100	A105	35度02分20秒	135度43分46秒	2018年２月14日～2018年３月12日	約48㎡	参拝門前覆屋建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
特別史跡・特別名勝　鹿苑寺（金閣寺）庭園	特別史跡・特別名勝	室町時代	土坑、落込み、高まり、整地層	土師器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦類	室町時代の境内を区画すると考えられる落込みを検出した。 江戸時代の参拝路路面を検出した。
		江戸時代	土坑、路面、整地層	土師器、施釉陶器、焼締陶器、染付磁器、土製品、瓦類	
		明治時代以降	土塀		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2017-11

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

発行日　2018年3月31日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　TEL 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093　TEL 075-256-0961